

JA全農WEEKLY

6面

「JA全農WCBF少年野球教室in苫小牧」を開催 元プロ野球選手が子どもたちに熱血指導(広報・調査部)

4-5面

全農グループ会社探訪
株式会社ジェイエフエス
おおいだ(広報・調査部)



大分県特産カボスを使って好評の飲料「つぶらなカボス」(4-5面)



群馬県内最大の直売所スペースを誇る「JAファーマーズ高崎棟高」(2面)



バッティングなどの指導のほか指導者向け講習、栄養教室も行い、参加者に餅や乳製品などを提供(6面)



2 「JAファーマーズ高崎棟高」オープン (群馬県本部)

「ハウスみかん防除研究会」を開催
(耕種資材部)

3 「全国きき酒選手権大会」に協賛 (米穀部)

東北ディスプレイコンテスト表彰大会を開催(東北営農資材事業所)

食育絵本『オムライスス』の制作に参加
(千葉県本部)

7 JAズームイン(JAなんと・富山)



『JA全農トピックス』の
ツイッターはこちらから



8 JR大阪駅でみのりみのるマルシェ 「福岡の実り」を開催(フードマーケット事業部)

「八丈フルーツレモンのティラミス」発売
(東京都本部・営業開発部)

JAタウンショップ紹介
JAにいがた南蒲

Web版JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

Web
限定

生産者を応援する新聞広告が
上毛新聞広告賞受賞(群馬県本部)

米国・ニューヨークの「JAPAN Fes」で
和牛プロモーションを開催(輸出対策部)

あぐラボがニチレイと社内起業家育成塾を
開催(経営企画部)



News!

「JAファーマーズ高崎棟高」オープン

地域一番の国産農畜産物の品ぞろえを目指して

群馬県本部



新鮮で安全・安心をモットーにした鮮魚・精肉コーナー



高崎商科大学とコラボした弁当の販売コーナー

オープン記念式典には竹内敏夫JAはぐくみ理事長、唐澤透JAグループ群馬会長、倉重徳也常務、伊藤雅美群馬県本部長が出席し、テープカットを行いました。同店は農産物直売所とスーパーマーケットが一体となったJAファーマーズ店舗として、売り場面積約580坪（1914平方メートル）、直売所スペースは約110坪（363平方メートル）で、直売所スペースは県内最大規模所スペースは県内最大規模です。

地元JAと連携した新鮮で安全・安心な農産物、畜産は「上州和牛・上州牛」「上州麦豚」「赤城鶏・麦風鶏」など県産を中心とした品ぞろえが特徴です。10月28～31日はオープンセールとして、上州和牛半額や国産ウナギが大特価で販売され、連日大勢のお客さままでにぎわいました。また、オープン記念企画として高崎商科大学・同短期大学部とコラボした、海鮮丼と海鮮茶漬で2度おいしく食べられる「鮮美透涼弁当」を学生が売り場に立って販売しました。

「JAファーマーズ高崎棟高」が10月28日、高崎市にオープンしました。Aコープ東日本管内で12店舗目の出店であり、JAファーマーズの直売所スペースは県内最大になります。

News!

「ハウスみかん防除研究会」を開催

天敵農薬を柱とした防除体系について意見交換

耕種資材部



発表者と参加者との総合討論



天敵農薬「バンカーシート」利用圃場の視察

ハウスミカン栽培の防除は、薬剤抵抗性の拡大により有効な化学農薬が限られており、天敵保護資材「バンカーシート」などの天敵農薬を利用した体系防除の研究が進んでいます。1日目は、農研機構、佐賀県、長崎県の研究機関から天敵農薬の利用に関する試験事例報告と、愛知県のJA蒲郡市、徳島県のJAアグリあなん、佐賀県のJAからつの3JAから天敵農薬を活用した病害虫防除をテーマにした取り組みの報告がありました。総合討論は「レスキュー防除のタイミングをどのように見極めているのか」「気門封鎖剤は何を使用しているのか」といった質問があり、体系防除に関する積極的な意見交換を行いました。

2日目は「バンカーシート」を利用している圃場視察を行い、利用者から話を伺いました。

全農はこれからも、ハウスミカンの防除研究と産地間交流を進めていきます。

全農は10月19、20日、福岡県福岡市と佐賀県唐津市で、産地JAの防除責任者・担当者50人が参加した「ハウスみかん防除研究会」を開催しました。



「全国きき酒選手権大会」に協賛

上位入賞選手に全農賞「お米ギフト券」を贈呈

米穀部

「個人の部」「団体の部」の優勝者表彰式



みずす。

PRに取り組

大会では、「個人の部」「団体の部」に参加する各県代表選手66人と、「大学対抗の部」に参加する8大学の学生20人が3年ぶりに一堂に会し、利き酒日本一を競いました。「個人の部」では香川県代表、「団体の部」では熊本県代表がともに初優勝を飾りました。「大学対抗の部」では千葉大学が初出場・初優勝を果たしました。

各部門で上位入賞した選手には、全農賞として「お米ギフト券」を贈呈しました。全農は産地との連携による高品質な原料米の安定供給を通じて、日本酒造りに寄与し、日本酒ファンを拡大する機会を通じて日本酒のPRに取り組

全農は10月21日、日本酒造組合中央会が主催する2022年のアマチュアリキ酒日本一を決める「第41回全国きき酒選手権大会」に協賛しました。



東北ディスプレイコンテスト表彰大会を開催

3年ぶりに実開催、7JAの優良資材店舗を表彰

東北営農資材事業所

表彰大会には7JAから14人の代表が集まりました。



れま

「次は全国での表彰を目指したい」「毎年陳列を楽しみにしてください」

「店舗の評価が上がることで職員のモチベーションも上がるなどの意気込みや喜びの声が聞かれました。」

コンテストは、東北地区の資材店舗活性化を目的に2011年から開催し今年で12回目、表彰大会は3年ぶりの実開催です。6県22JA・13店舗から計117の陳列応募があり、一等地部門金賞を受賞した「新石手農業協同組合 二戸営農経済センター 舌崎店」をはじめとした受賞店舗の表彰を行いました。

東北営農資材事業所は10月25日、仙台市で東北地区JA店舗ディスプレイコンテスト2022表彰大会を開催しました。東北6県7JAから14人の代表が出席しました。

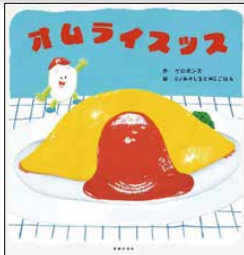


食育絵本『オムライスッス』の制作に参加

主婦の友社と連携、食育の取り組みを実施

千葉県本部

「オムライスッス」



ました。

「おこめクイズラリー」も開催し、県産農畜産物を紹介するオリジナル小冊子をプレゼントしました。参加者はヒントを見つけないながらお米に関するクイズを楽しんで解いてい

また、同会場において「おこめクイズラリー」も開催し、県産農畜産物を紹介するオリジナル小冊子をプレゼントしました。参加者はヒントを見つけないながらお米に関するクイズを楽しんで解いてい

千葉県本部は、未就学児向けの食育の取り組みとして絵本『オムライスッス』の稲作に関する内容を監修しました。また、(株)主婦の友社主催の出版イベントに協賛し、クイズラリーを開催しました。



株式会社ジェイエイフーズおおいた

特産カボスをはじめ大分県産農産物に特化 農業や地域に貢献し創業50年、長く愛される企業へ



勢ぞろいした株式会社ジェイエイフーズおおいたの従業員



創業50周年記念式典



飲料の製造ラインと加工設備

(株)ジェイエイフーズおおいたは、カボスをはじめ、主に大分県産の果物や野菜を使ったさまざまな飲料を製造・販売しています。創業50年を迎え、これからも地元農業や地域を支え、長く愛される企業を目指します。

【広報・調査部】

温州みかんの 生産拡大とともに発足

1961年に制定された果樹農業振興特別措置法により、柑橘を中心とした果樹産業の振興が始まりました。大分県でも県南地域や県北地域に主に温州みかんの増殖が進められ、急速に生産量が増大しました。そこで70年に農林省(当時)が「温州みかん加工需要拡大緊急対策事業」として、大型果汁工場の建設を打ち出しました。大分県も工場の誘致に乗り出し、71年4

月に全国6番目の果汁工場として建設が認可されました。

山口経済連(日果工)の協力のもと、72年1月30日に工事に着工。同年11月、米国製の搾汁設備、ドイツ製の遠心分離機、英国製の濃縮設備など、最新鋭の設備を備えた果汁工場が完成し、大分県果実農業協同組合連合会杵築工場として操業を開始しました。91年12月に(株)ジェイエイフーズおおいたが発足し、現在は温州みかんの搾汁事業をはじめ、清涼飲料水やアルコール飲料の製造・販売、創業

時から継続している県産果菜の搾汁・加工・販売などの事業を展開しています。

看板商品

「つぶらな」シリーズ開発

同社は粒入りのみかんジュースを販売するなど、固形物入り飲料の製造・販売を最も得意としています。また、みかんジュースは根強い人気がありますが、世間では他にもさまざまな果物が普及し、販売されるジュースの種類も増えてきました。そこで自社の強みと地元特産のカボス



たわわに実ったカボス①と好評の「つぶらなカボス」

地域に親しまれ 100年続く会社

代表取締役社長 大塚 修司氏



創業から50年を迎えました。地元産の農産物を使うことで農業を支え、会社があることで働き場の提供など、地域に貢献することができま。そのためにも、顧客満足はもちろんですが、同時に従業員満足も重要です。一人一人がプロの意識と技術、責任とプライドを持ち、従業員みなで力を合わせて取り組むことは、会社の存続だけでなく、自身の生活向上にもつながります。また会社としては、コンプライアンスの徹底、労災ゼロも目指しています。ずっと地域に親しまれる会社になるためにも、この先50年、100年と会社を続けていくことが大事だと考えています。

大分特産のカボスはユズやスターチといった香酸柑橘の中ではまだ認知度が低いので、県では関係機関が協力し、カボスの宣伝や消費拡大に取り組んでいます。JAや全農の協力で原料のカボスを確保しやすいこともあり、「つぶらなカボス」のほか、乳酸菌を配合した乳性飲料「かぼすと乳酸菌」やクエン酸を含むカボス

地元・特産のカボス商品 9アイテム展開

を使い、さわやかなカボスの香りとプチプチとした粒の食感を楽しめる「つぶらなカボス」を開発しました。全国的にも好評で、今ではリンゴ、ユズ、ミカン、ブドウと展開しています。

循環型農業を推進 人材育成にも力

企業理念に「農業の発展に寄与すること」「地域社会に親しまれ愛される企業を目指すこと」を掲げています。商品開発部では消費者ニーズを踏まえつつ、大分の農産物を使った商品の開発に力を入れています。地元の農産物を使うことで大分県の農業

の果汁と大分県産塩を使った「塩とカボス」など、カボス商品のラインアップを充実させています。また、「かぼすハイボール」などカボスを使った飲料を通じて使い方を知ってもらうことで、青果の販売にもつながりたいと考えています。

を支え、地域に貢献できると考えています。また、製造過程で出る食物性残さを全て社内でのリサイクルセンターで農業用の堆肥に再利用することで食品リサイクルを実践し、循環型農業の推進に取り組んでいます。

今年から、技術・知識の継承や人材育成に力を入れています。今までは専門性が強く、1人が同じ業務を担当していましたが、他の業務も習得することで工程管理の視野が広がり、互いの工程を助け合うことができます。それほど大きくない会社だからこそ従業員同士が協力し、スムーズに稼働させることは、安定供給にもつながります。

会社の概要 (2022年10月1日現在)

- 本社所在地** 〒873-0014 大分県杵築市大字本庄1453番地1
- 事業内容** 清涼飲料製造業、リキュール製造業
- 創業** 1972(昭和47)年11月、会社設立は1991(平成3)年12月
- 代表者** 代表取締役社長 大塚 修司
- 従業員数** 151人



公式ホームページは
こちら



<http://www.jafoods-oita.co.jp>

「つぶらなバラエティセット」を5名様にプレゼントします。

応募方法

件名に「グループ会社探訪プレゼント」、本文に郵便番号、住所、氏名、年齢、所属JA、電話番号、JA全農ウィークリーの感想をご記入の上、メールでご応募ください。

応募先

zz_zk_zennohweekly@zennoh.or.jp

締め切り

令和4年12月2日(金)23時59分



※応募者多数の場合は抽選で当選者を決定いたします。また、当選の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。
※いただいた個人情報は、プレゼントの発送にのみ使用いたします。

「JA全農WCBF少年野球教室in苫小牧」を開催

元プロ野球選手が子どもたちに熱血指導

全農は、王貞治氏が理事長を務める（一財）世界少年野球推進財団（WCBF）が11月5日に北海道苫小牧市とましんスタジアムで開催した「JA全農WCBF少年野球教室」に特別協賛しました。

【広報・調査部】



川崎講師による走塁指導

教室は、子どもたちの健やかな心身の成長と、未来の夢を応援することを目的に開かれ、30年目を迎えました。8月から和歌山市、広島県呉市、富山市、山形県寒河江市で開催され、苫小牧教室が今年度最後の教室となりました。

少年野球チーム17チーム、小学生、指導者、保護者ら合計173人が参加。里崎智也氏（ロッテOB）、

川崎宗則氏（栃木ゴールデンブレーブス）、五十嵐亮太氏（ヤクルトOB）、森本稀哲氏（日本ハムOB）ら豪華講師による熱血指導が行われました。

走塁やバッティング、「投手」「捕手」「内野手」「外野手」のポジション別に、野球の基本を指導しました。指導者を対象とした子どもたちへのトレーニング方法や、保護者

を対象にした成長期の子どもへのスポーツ栄養管理に関する講習も行いました。

参加者に包装餅やスキムミルクなどを提供、各講師へは北海道産「ゆめぴりか 10kg」、ドライフルーツなどの「ニッポンエール」商品を贈呈しました。

「トクサン」と「ライパチ」さんが講師のアシスタントをしたり、子どもたちと一緒に野球のレクチャーを受けたりと、会場を盛り上げてくれました。当日「トクサン」がレポートした内容は、後日「トクサンTV」で配信されます（配信日は未定）。

野球YouTubeチャンネルの「トクサンTV」から「トクサン」と「ライパチ」さんが来場



各社提供品一覧

提供社	商品名
全国農協食品(株)	「焙じ茶」
全農パルライス(株)	「ジップロック」
JA全農青果センター(株)	けんちん汁・豚汁用「みんなのやさい」 肉じゃが・カレー用「みんなのやさい」
JA全農たまご(株)	「しんたまご」
JA全農ミートフーズ(株)	「クリアファイル」「ロジックバッグ」
全農チキンフーズ(株)	「ボールペン」「消毒用アルコール」「巾着袋」 「マスク」「マスクケース」
雪印メグミルク(株)	「北海道牛乳」「農協 野菜Days 野菜&フルーツミックス」
ホクレン	「北海道産きたほなみうどん」 JAびらとり「ニシパの恋人」(トマトジュース)
全農	包装餅 スキムミルク



参加者への各社提供品



YouTubeアカウント
はこちら
トクサンTV【A&R】



全農広報部
スポーツ応援
Twitterはこちら

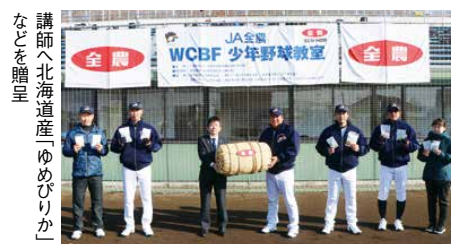


日本ハムOB・森本稀哲氏インタビュー

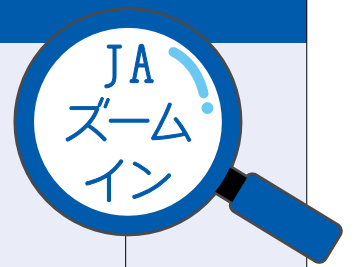
これまでもいろいろな野球教室に参加してきましたが、今回初めて参加したこの教室は、内容がとても充実していて感動しました。素晴らしい講師陣はもちろんのこと、指導者や保護者を対象とした講習など、ただ野球がうまくなるためという観点だけではなく、子どもたちの成長もサポートするという観点が良かった。自分自身とても楽しめたし、学びのあった教室でした。



スポーツ栄養教室



講師へ北海道産「ゆめぴりか」などを贈呈



地域を守り「協同の力」を発揮

特産育て、集落機能の存続にも貢献

JAなんととは、富山県の西部に位置し周囲の山々から湧き出た清らかな水に恵まれた地域です。水稲を中心にさまざまな作物を生産し、畜産農家と耕種農家を結び付けた循環型農業に取り組んでいます。

1億円産地づくり支援で 特産品ニンニクを拡大へ

貢献活動を展開し、地元に着した活気のある地域づくりに全力を尽くしています。

また、早くから集落営農の組織化を進め、集落機能の存続や農村文化の継承に対し「協同の力」「組織の力」を発揮すべく、約150人の役員が農業を中心とした地域

1億円産地づくり支援の園芸作物としてニンニクの生産に取り組み、2008年から試験栽培を開始しました。加工用「黒にんにく(原材料)」として販売したところ評価は良好で、徐々に栽培面積も増えてきました。

ニンニク栽培は、鳥獣害が少なく中山間地域での栽培が可能で、水稲収穫後に植え付けし、翌年、田植え後に収穫となるため、水稲と作業競合しないのが特徴です。6月の収穫後、1カ月ほど乾燥させ出荷します。出荷先の県外スーパーから品質の良いニンニクと評価され、さらなる生産拡大を目指しています。

五箇山特産「赤かぶ」 酢漬けや缶詰も好評

JA上平野菜山

菜加工場で加工する

「赤かぶの酢漬け」

は、五箇山地域で栽培されている「赤かぶ

(飛騨紅かぶ)」が使用されています。

「赤かぶ」は、10〜11月

加工用が好調で増えるニンニク栽培



商品開発も進む五箇山特産「赤かぶ」

「赤かぶ」は、10〜11月

JAなんと (富山県)



概要

2022年2月28日現在

正組合員数	2210人
准組合員数	1819人
職員数	133人
販売品取扱高	10億4千万円
購買品取扱高	16億8千万円
貯金残高	619億円
長期共済保有高	1260億8千万円
主な農産物	米、干し柿、ニンニク

に収穫し、冬の保存食として漬けられる伝統野菜。昼夜の寒暖の差により鮮やかな赤紫色になり、甘みが増し漬け物に適しています。

22年6月には「赤かぶの酢漬け」の缶詰も新商品として開発し、南砺市内の土産店や直売所で販売しています。一年中買いたい求めることができ、贈答品として観光客などにも喜ばれています。

組合員の要望に応えて 移動購買車を週6日運行

世界遺産に登録された五箇山地域は、県内でも特に高齢化が進む地域です。購買店舗を07年に閉店以降、組合員

たつての要望で20年からは移動購買車「JAなんとふれあい号」を週6日運行し、多く



「地域を守り、協同の力を発揮」と意気込む役員



「JAなんとふれあい号」で買い物をする住民

の方々に喜ばれています。

JAなんととは「相互扶助の精神」を守り、協同組合としての役割発揮に全力を尽くします。

JR大阪駅でみのりみのるマルシェ 「福岡の実り」を開催

旬の果物や野菜、加工品を取りそろえて販売

全農は10月29日、JR大阪駅「アトリウム広場」でみのりみのるマルシェ「福岡の実り」を開催しました。
【フードマーケット事業部】

福岡県本部が出展した今回のマルシェでは、柿「秋王」やミカン「北原早生」、キウイフルーツ「甘うい」など福岡オリジナル品種の果物、トマト・キュウリ・葉野菜など旬の野菜、加工品を取りそろえて販売しました。

お客さまからは、「ひさしぶりの大阪駅でのマルシェでうれしい」「おいそうな果物いっぱいですね」「知らなかった品種なので試してみる」などの声を多数いただきました。



大阪駅でのみのりみのるマルシェ「福岡の実り」

福岡オリジナル品種の甘柿「秋王」

「八丈フルーツレモンのティラミス」発売

東京都のファミリーマート約2400店舗で販売

全農と(株)ファミリーマートは、JAグループが強みを有する国産農畜産物の全国供給網を生かした地域色豊かな商品開発に取り組んでいます。その一環として「八丈フルーツレモンのティラミス」を開発しました。東京都のファミリーマート約2400店舗で、11月1日から販売しています。
【東京都本部・営業開発部】

「東京都地域資源」(*)の一つで全農が供給する東京都八丈島産「八丈フルーツレモン」を原料に作られました。「八丈フルーツレモン」のソースとシロップをスポンジに染み込ませ、マスカルポーネを入れたムースで重ねたフルーツティラミスです。ホイップクリームとレモンソー

スをトッピングし、爽やかに仕上げました。

原料に、果皮表面の傷などによって青果として市場出荷に適さない「八丈フルーツレモン」を使用することで、生産者の所得安定につながりたいという思いで開発しました。

(店舗によって取り扱いがない場合があります)



「八丈フルーツレモンのティラミス」
(税込み298円)

※「東京都地域資源」とは、東京都の地域の特産物や産地の技術で、一定の要件を満たしたものを東京都が指定しています。



JAにいがた南蒲

フランス生まれ新潟育ちの西洋梨「ル・レクチエ」。全国の生産量は「ラ・フランス」の10分の1程度の希少品種ですが、新潟県では西洋梨のほとんどを「ル・レクチエ」が占めています。

「ル・レクチエ」は収穫後40日超の長期追熟を経て果皮がブライトイエローに染まった頃に出荷されます。果肉はみずみずしく、ざらつきのない滑らかな舌触り。口に入れると上品な香りが口いっぱいに広がり、濃厚で豊潤な甘さをお楽しみいただけます。



「ル・レクチエ」 2kg(5~7玉入り)
.....4150円(税込み)

▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☐ shop@ja-town1.com

ご注文は
こちらから

